



新たな取り組みにチャレンジしています

フードバレーとがち



井田 芙美子

帯広市
(株)いただきますカンパニー
畑と人をむすぶをコンセプトに、農場ピクニックや畑クラブ、畑カフェを展開し、「いただきます」の精神を伝えている。また二児の母らしいアイデアで十勝の食や農業を発信している。

十勝型の教育農場のあり方を考えます!!

■家畜とのふれあいができる体験農場と一般生産農場での体験で、こどもたちへの教育農場を実現します。

この調査研究で、動物がこどもたちに伝えるものは非常に大きいと感じました。十勝らしいスタイルで十勝開拓の歴史を伝える馬を使った馬耕を取り入れた体験農場を目指します。

■外国人向けプログラムの確立とツアーコーディネートを確立します!
ヨーロッパを訪問し、違いを学んだことで「十勝の価値」も再認識できました。外国人に十勝の良さを発信することへの可能性も感じています。

いまの課題は?

■農場ピクニック、畑クラブ、畑カフェ…いただきますカンパニーが、自分がこれまで進めたこと、そしてこれから何をを目指すのか見つめ直すことで、次の展開を模索したいと考えています。

■これまでの説明一辺倒であったスタイルを見直し、教育農場として、もっとこどもたちの感性に訴える時間を提供したい!

体験農場の設立により、「食や農が楽しく学べる」というイメージを持った十勝に!



チャレンジ実現に向けた研究内容は?

イタリアのアグリツーリズムによる教育農場について学び、その後ドイツの教育農場を訪問し、ヨーロッパの教育農場のあり方について調査研究しました。



ドイツ(ドッテンフィールドホフ)での光景。実際に畜舎の中に寝そべりながら絵を描くこどもたち。この農場では、シュタイナーの思想を取り入れ、感じる事に重点を置いて食や命に向き合います。平日は学校に通うこどもたちが、週末や長期休暇には多くのこどもたちが教育農場にやってきます。



イタリア(フルッテベルメツ)は小麦からパンが出来るまでを学ぶ体験が行われ、味覚教育などもしっかり行われていました。



食の先進地イタリアでは、大人のアグリツーリズムも盛んで、様々な体験メニューがあります



こどもたちが家畜を通じて感じること。このような体験はこどもたちにとって貴重な機会であると感じました。

フードバレーとがち推進協議会の支援(十勝人チャレンジ支援事業)を活用して、以下のテーマで調査研究を行いました。

【テーマ】 十勝型の教育農場のあり方を探りに行こう

十勝人チャレンジ支援事業とは?

新たな取り組みにチャレンジする人を支える事業。単なる視察旅行ではなく、自身の経営課題を再認識し、その課題解決のために何が必要か調査研究を行い、実践していくものです。